



紅葉の森（北九州地区会 小林 弘和）提供

低気圧・高気圧

昨年、知人からの紹介で採用した新入社員は、司法書士事務所で10年間働いていた、とても優秀な人材。司法書士は国家資格の難易度レベルでいえば、税理士と同レベルと私は思っているの、ことあるごとに、司法書士事務所ではこんな場合は、どうだった？と質問している。ほとんどは思っていたとおりの回答なので、やはり士業はどこも似たり寄ったりだなと感じている。

ただ、その中で一番感じるのは、職員である補助者の位置づけが、税理士と司法書士ではかなり違うということ。税理士事務所の補助者、つまり税理士資格を持たない職員のことであるが、税理士事務所で10年間も働けば、法人税、消費税の申告書はもちろん、相続税の申告書までも作成するくらいのスキルは身に付いている（税理士試験の科目は持っていないのに）。もちろん、その裏付けとしてMJSのようなベンダーのソフトを利用している。これに対し、司法書士の業界は、資格者と無資格者の垣根が高い気がする。例えば不動産売買の立会いを、司法書士の資格を持っていない無資格のベテラン補助者が単独で行ったりすれば、即懲戒処分になるということ。これは、我々の業界でいえば、税務調査の立会いを、無資格の補助者が単独で行っているようなものである。

昔、先輩税理士に「税務調査の立会いは絶対に税理士が立ち会わないといけない」と言われたことがあるので、日頃から気を付けてはいる。まずは税理士業務の基本中の基本である税務調査の立会いは、資格を持った税理士しか出来ないということ、を、再確認する必要があるのではないだろうか。「何を当たり前のことを言ってるんだ」と思われた先生、尊敬いたします。

（福岡地区会 川野 秀明）

紅葉の森は、福智山山麓にあり、絵画のような色鮮やかに染め上げる紅葉を無料で楽しめる公園。知る人ぞ知る紅葉観賞の穴場です。

contents

第46回定期総会	2
記念講演会	4
会員のひろば	16
新任のご挨拶	
偏西風・お知らせ・編集後記	19

第46回 九州ミロク会計人会 定期総会

ご挨拶

九州ミロク会計人会
会長 大久保昌逸



皆様、こんにちは。本日は2年ぶりの総会でございます。去年の総会は書面審議とさせていただきましたけれども、新型コロナウイルス感染症が世界に拡がりをはじめ、あれからもう1年半が経過しました。

最近、なんだか危ないなあと思うことは、この状況に何となく慣れてしまっ、日常生活の中でどうなったら感染するのかが大体分かった気になっているということでしょう。

一年前の今日、7月5日のNHKの報道では、「福岡市で新たに6人の感染者が出ました。これで通算877人です」というものでした。今から考えたら感染者数はその程度でした。それでも、当時は大変だと思って、総会も書面審議にしました。2年も続けて書面審議にするわけにもいかないし、社会も動き始めています。税務署から入った情報によると、7

月10日の異動日以降は税務調査も税理士さんと相談しながら再開するよという方針になったようです。

そういうことで、我々も状況に慣れるのではなく、十分に気を付けながら元の生活に戻していかなければと思いつつ、今日のこの総会の運びとなりました。11時からの正副会長会は、出席者のみで行い、先ほどの理事会は、出席者とZoomの併用のハイブリッドで行いました。講演会は、会場とZoomを使って配信もしました。そして今、この総会は、会員さんの委任状と、会場の出席者ならびに各地のZoom参加者とのハイブリッドで開催しております。

そんな中、東京からはMJSの是枝社長他役員の方々に来ていただき、また九州北部税理士会の武部会長にもご参加いただきありがとうございます。審議事項としては例年どおりの議案と理事変更の議案が上程されます。それと今年は、4か月後に全国統一研修会熊本大会が開催されます。

4か月先は、どんな状況になっているのか分かりませんが、その時にできる最高のことをやるという覚悟でありますので、またそのことに関しても皆さんに御相談したり、お願いしたりすると思います。どうぞよろしくお願いします。

総会

令和3年7月5日（月）午後3時15分から第46回定期総会が福岡市のホテル日航福岡において開催されました。

総会は東総務委員長の司会により始まり、物故会員の氏名が報告され、黙祷をささげご冥福をお祈りしました。来賓の紹介が行われ、吉田副会長の開会の辞、大久保会長の挨拶の後、議長選出に入り福岡地区会の川野会員が選ばれました。議事録署名人には行時会員と成川会員が指名され、議案の審議に入りました。

議案1 令和2年度事業報告及び承認について

議案2 令和2年度決算報告及び承認について

東総務委員長及び古賀財務委員長から事業報告及び決算報告について説明があり、桑原監事が監査報



告を行い、審議の結果承認されました。

議案3 令和3年度事業計画及び予算案承認について

東総務委員長及び古賀財務委員長が事業計画及び予算案を詳しく説明し、各委員長から事業計画につ

いて報告がありました。審議の結果承認されました。

追加議案として、北九州地区会選出の理事変更について上程され、承認されました。以上をもってすべての審議が終了しました。

続いて来賓の武部道孝九州北部税理士会会長、是枝周樹株式会社ミロク情報サービス代表取締役社長より祝辞が述べられ、岡村副会長の閉会の辞により

総会は無事終了しました。

昨年の定期総会はコロナウイルス感染症により書面での審議となったため、2年ぶりの集合しての総会となり、総会後の懇親会は中止となりました。

変異ウイルスによる新たな感染拡大が心配されますが、11月の全国統一研修会熊本大会が無事に開催されることを願うばかりの総会となりました。

講演会



定期総会に先立ち記念講演会が開催されました。講師に九州国立博物館長の島谷弘幸氏をお迎えし、「博物館への道と九州国立博物館の展望」と題して講演をしていただきました。

(記念講演会詳細は4ページ以下)

ゴルフコンペ

我がミロク会計人会は 永久に不滅です

昭和49年10月読売巨人軍 長嶋茂雄の引退セレモニーでのフレーズを引用、加工したものです。

二年前、JR大分駅構内でハイボールで乾杯し、台風のため中止となった九州ミロク会計人会親睦ゴルフ大分大会のリベンジを誓い合ったM君とH君に再会することができました。H君は名前が私と同じ音読みのため、何とも近い御仁である。

令和3年7月6日、所は名門福岡カンツリー倶楽部。コロナ禍にも拘わらず24名の精鋭の参加を得て、酷暑とまでは行かない暑さの中、無事ホールアウトすることができました。

このコンペとの出会いは、確か開業二年目の頃、霧島で開催されたコンペが初参加と記憶しています。あれから三十余年、下手なゴルフではありますが、自分なりのゴルフの歴史もできてきました。

中でも圧巻は、平成28年四国・松山での全国統一研修会親睦ゴルフでの優勝です。この日本チャンピオンの称号は、一生の宝となりそうです。



私事ではあるが、この10月末をもって廃業を決意しました。ミスタージャイアンツに対しては甚だ失敬とは思いつつ、冒頭のフレーズはその意味で拝借したものです。

また、時節柄このフレーズも忘れてはなるまい。東京オリンピック！ がんばれニッポン！

(佐賀地区会 桑原 泰蔵)

優 勝	松岡 豊 会員 (福岡)
準 優 勝	緒方 芳伸 会員 (福岡)
第 3 位	石橋 哲也 会員 (福岡)
ベストグロ	松本 宣行 会員 (北九州)

博物館への道と 九州国立博物館の展望

九州国立博物館長 島谷 弘幸氏

※令和3年7月5日に開催された第46回定期総会の記念講演を要約したものです。



はじめに

皆さん、こんにちは。ただ今、ご紹介いただきました九州国立博物館の館長の島谷でございます。本日は、お集まりいただきまして、ありがとうございます。はじめに、私共は九州国立博物館のことを「九博」と通称で呼んでおりますことをまずお断わりしておきます。

本日は多少、仰々しいタイトルをつけておりますが、難しい話をしようということではございません。こういうコロナ禍の時代ではありますが、私、人と人とのつながりが非常に大切であると、博物館に入りましてからの人生で痛感しております。それ以前においてもそうであったということで、本日は、ちょっと和やかになるような手持ちの写真を交え、ご紹介しながらお話を進めてまいりたいと思っております。

書との出会い

最初に私が書との触れ合いを持つようになったのは小学校2年のことでした。当時の学校の先生に、島谷君は落ち着きがないからお習字でもしたらと勧められたのが書との出会いです。教育熱心な母にお習字の塾に連れていかれて、何枚も何枚も何枚も書いた結果、書いたのがこの写真にあ



る「こだち」という字でした。

それ以降、細く長く書をずっと続けておりました。途中いろいろなことでアドバイスいただける方もあったわけですが、最初の恩師といえば、この小学校2年生の時の担任の女性の先生ではなかったかなと思います。先生が亡くなられるまで直接会ってお目にかかることはほとんどありませんでしたけど、最後まで年賀状のやり取りをしながら、今日あるのは先生のおかげであると思っております。

バレーとの出会い

ところで、私は蒲柳の体質のまま中学生になっていました。2年生の時、担任の先生から、島谷君は体が弱いから、このまま大人になったら人生も大変だから体を鍛えなさい、ということで勧められまして、バレーボール部に入ったんです。

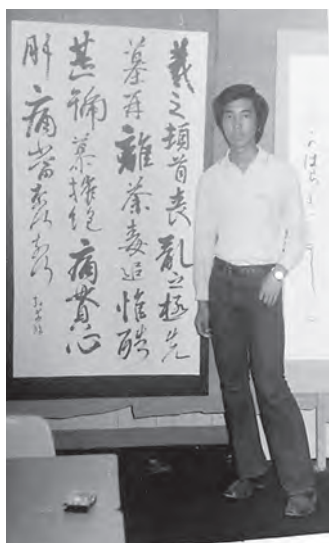
私、多少背は高かったんですけど、運動音痴であったために、バレー部では、はじめブロック要員としてブロックするだけだったんですが、一と月、二月、そして何か月かするうちに元気になって、翌春にはセッターになって、夏の大会はアタッカーで中衛のレフトで出るような状況にまで育ててもらいました。このときの先生も恩師の一人だと思っております。

その先生がいなければ体が弱いまま大人になっていたことを考えると、空恐ろしいです。本当に全くの運動音痴だったんですが、取りあえずは運動が好きになるところまでは先生のおかげで引っ張ってもらいました。

生涯の師との出会い

続きまして、3人目の恩師に行く前に、高校のときに誰しもが経験する大学受験がございます。

自ら選択して進学しました。東京教育大学の書専攻でした。この写真の書が大学に入った直後の私の作品です。臨書作品で、王羲之の喪乱帖の冒頭の部分4行を書いたものです。下の写真の右側の人が生涯の恩師となる小松茂美という先生です。私がお目にかかった時には、東京国立博物館の美術課長をお務めになられておりました。



大学に入った直後の作品

当時の東京国立博物館の課長は、東大だとか京大とか阪大だとか旧帝大を出た人が勤める要職です。小松先生は旧制中学しか出ていないにもかかわらず、昭和47年に昇進されていました。その年に私がたまたま大学に入ったこともありまして、先生との接点ができてくるわけなんです。

君は書をやりたいんだったら、まず学問をやりなさいと勧めてくださいました。学問が進めば字がよくなると。そういう姿勢が大切だということでおっしゃられたんでしょう。

自分の下で学問をしろということで先生の書生のような状況で学問をしつつ、先生の仕事のお手伝いをしたり、編集をやったりということを経験しながら実績を積むことを数年やりました。おかげで、昭和59年、1984年に博物館に入れていただくことができました。



師の小松茂美先生と

博物館の職員で考古や美術作品などを扱う人を学芸員というんですが、国立博物館では学芸員と言わずに研究職、研究員というふうに言います。それに採用されるための条件としては大学院修了、もしくはその能力を認められる者というただし書きがついておりました。大学卒業後の数年間で小松先生から鍛え直されましていろいろな論文を書いた成果で、博物館に入れていただくことになったわけです。ただ、ほかの同期の人間とかはみんな大学院を出ていますので、当然ながらスタートの段階で大きく出遅れているわけですね。その段階で、私はもう博物館の中の出世等は全く念頭なくて、学問をしようということで入っていったということです。

だから、大学院進学で挫折し、博物館に入ったときも同僚からはるかに遅れた状況で入っているということをまず皆さんにお話をし、それを認識してもらえばありがたいなと思います。

趣味との出会い

それが何で今日の立場になっているかというのが、ちょっと面白いといえ面白いと思います。学問だけでなく、やっぱり人と人のつながりというのは幅広いものがあります。私は好きなことも並行してやっておりまして、その過程で出会った人たちを若干お話しさせていただきます。

皆さん、この中でテニスをお好きな方がいれば分かるかも知れませんが、雉子牟田明子さんという元テニスプレーヤーで、今、大坂なおみさんなどがいるから、世界で何位といってもぴんとこないと思いますが、当時彼女は世界49位まで上がった人なんです。彼女とテニスをやらせていただくなど、趣味の一環としてやってまいりました。

また、昨年亡くなられた小川誠子さん、誠子と書いてトモコさんというんですけど、プロの囲碁の棋士ですが、東博の副館長時代に指導を受けたこともありました。なかなか得難い指導でしたけれども、昨年亡くなられたときには、一度でも接点があった方なんでとても残念でした。

こういった仕事以外の交流によって、自分の幅ができていったのではないかなというふうに思います。絶えず仕事一途で今日まで来ましたよというのが、ある意味格好いいのか分かりませんが、寄り道をしながら今日まで来て、その寄り道が非常に役に立っているというところも人間形成にはあってもいいんじゃないでしょうか。落ちこぼれの人生を歩み

ながら、今日まで到達することができるというのが、また一つの不思議ですが、そういう中にあるのもこういう余暇も大切にできたというのが私です。

それを念頭に置いていただき、私の専門である書の話から、本題であります九州国立博物館の紹介と、これからどんなことを考えて運営しているかということもお話ししていきたいと思っております。

日本の書

前段階を終えまして書の話です。縄文・弥生の日本には文字がありませんでしたので、それをどういうふうにして理解していくかというのは非常に難しいものがあります。

甲骨文というのは、いろいろなことを占うときに、骨を焼いて、そのひび割れで、神様のお告げであるということで、その後に何を占ったかというのを文字に刻して残していったというものです。今から3000年あまり前の作品で、神と人をつなぐのが文字であったという時代のものです。文字の歴史として皆さんにこれをお見せしたいということで御覧に入っております。

続いて、日本に文字が入ってきたのがいつかということなんですけれども、文字という認識はない状態で入ってきたものは当然あると思います。よく知られている福岡の市立博物館にある金印ですね、漢委奴国王という印ですね。中国の王朝から金印を拝受したということが大きな歴史の事実として、また作品としてあるわけですが、それを理解した上で拝受したのかどうかというのは甚だ疑問ではあります。通訳など人の助けを借りながら文字が次第に日本の中に入ってきたわけです。その文字を学ぶことで、文化・生活が豊かになるツールとして利用し、我々の先祖は努力をして新しいものを身につけていったんです。

今御覧いただいている写真の作品は、稲荷山古墳出土鉄剣の銘という5世紀のものです。その中に中国の文字を借りて日本の人の名前を表現しています。さらにこの文字は、鉄剣の中に象嵌といってほかの金属を埋め込んで表現をしています。そういう技術もここに伝わっているということで、二重に貴重な存在であるわけです。



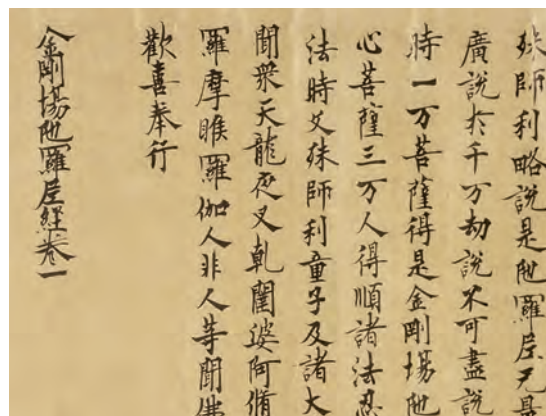
国宝 稲荷山古墳出土鉄剣銘(部分)

5世紀に既に日本の中でそれができそうな人がいたということに注目してもらいたいと思います。当然ながら日本人だけでできたわけじゃなく、日本に渡来した帰化人と呼ばれている人たちの助けを借りてできているわけです。

飛鳥時代の書

墨で書かれた最も古い作品は、今年の夏、九州国立博物館で「皇室の名宝」という展覧会を開催しますが、その中で聖徳太子の法華義疏が展示されます。これが墨書としては一番古いものです。

聖徳太子の存在を今は否定する説があり、厩戸皇子という表現のほうが良いとして教科書に書かれております。聖徳太子信仰、聖徳太子が人間離れした才能を持っていて、一度に6人の人が話をしたらそれを全部聞き分けることができたという逸話が残っております。その人物がいたことは間違いのないことです。聖徳太子は7世紀の初めぐらいに活躍する人ですけれども、厩戸皇子かも分かりませんが、そういった人がいて墨書を残しました。



国宝 金剛場陀羅尼經(部分)

さらにはそれから半世紀あまりたつと、こういった字を書くような人が日本に現れたのです。

その後に今度は、これを書いたのも日本人なのか帰化人なのか明確には分かりませんが、墨の文字として残されている写経では一番古い遺品です。奥書の干支を換算すると686年になるんですけど、7世紀の終わりにはこういった字が日本の中で残されるようになります。

こういう文字というのは、今だと立ちどころにインターネットで文字が中国も日本も共有できるわけですが、これを伝えるためには、遣隋使、遣唐使であるといった文化交流を掌る人たちによって文字が入ってきます。中国の書が日本で流行するよ

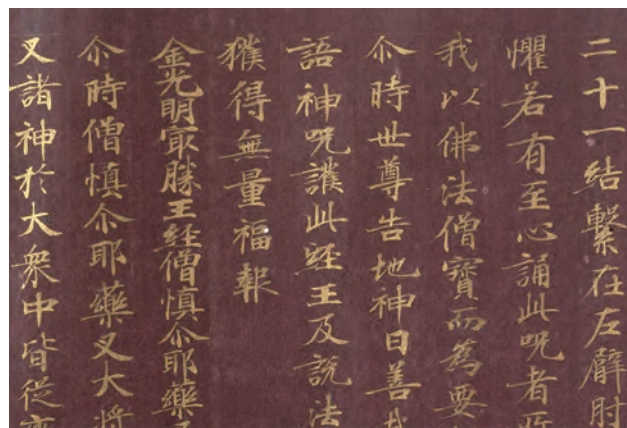
うになるには何十年か後になります。こういった細身のすらっとした文字が中国ではやるのが7世紀の初めです。この686年にこういった字形が日本の中で書かれている事実から、書法の伝播にはやっぱり50年ぐらいは時間がかかったのかなと思います。

奈良時代と日中文化交流

続けて、奈良時代にはさらに形が整った文字が書かれるようになります。この時代は、とにかく先進国といったら中国です。中国をお手本とする以外になかったわけで、奈良時代というのは文化も政治も経済も中国一辺倒の時代です。

ただ、今のコロナ禍と同じように、奈良時代もいろいろな流行病が出ておりますので、それを治めるために、皆さんもよく知っている聖武天皇あたりは仏教に頼ったということです。筑紫だとか肥前とか肥後だとかの国がありますけど、各国に公の寺として国分寺、国分尼寺をつくりまして、国分寺の中に五重の塔をつくり、その塔の中にこのお経を安置したと伝えられております。

今、二つの国のものだけが残っております。今見ているのは奈良国立博物館にあるお経でして、紫紙金字経と言います。紫の紙に金字で書くという。墨で書くだけでも非常に難しい技術を要するんですけども、それを金字で書いています。金粉をにかわで溶いて書くんですけど、筆の粘りが出て、いい字が書けないんですよ。それでもこれだけの字が書けている。皆さんから見て写真の一番左の行が光って見えますよね。普通ににかわで溶いただけでは、書いた文字の上にかわの皮膜ができるので光って見えないんです。それをきれいに光らせるためにはイノシシの牙——猪牙でにかわを取るんですよ。それによって金ピカになる。極楽浄土は紫で彩られ



紫紙金字金光明最勝王經（部分）

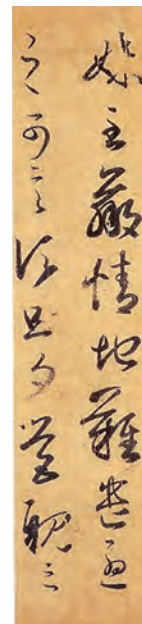
て、金、銀、瑠璃、めのう、さんご、そういったものがきらびやかであったということで、経巻を荘厳するという意味で紫の紙に金字で書いたものがつくられていきます。

今、私は紫の紙と言いましたが、皆さんこの紙は何色に見えますか。ぱっと見、茶色ですよ。でも当時の紫はこの色で、古代紫といって紫草で染めるとこういう色になるんです。だから、今我々がバイオレット、紫と言っているものと、奈良朝の人が紫と言っているのは色目が違うんですよ。だから、文献に書かれていることを今の感覚で全部理解すると、難しいことになるということが言えると思います。帰化人が書こうとも、少なくとも日本で書かれた古い例を今幾つか紹介いたしました。

書聖 王羲之

こういう時代に日本に入ってきたものの一つとして、王羲之の筆跡があります。王羲之は「書の神様」「書聖」と言われている人ですが、ここにあるのは、九州国立博物館が購入したものです。王羲之の作品のいわゆる模写、平たく言うと模造品です。現状では王羲之の本物の作品は一点も残っていないんです。中国の唐時代の2代皇帝の太宗皇帝は王羲之の作品がとても好きで、王羲之の作品を全部集めたという。集めたはいいんだけど、全てというわけではないんですが、亡くなるときにお墓の中に持っていった。一番有名な王羲之の蘭亭序というのをお墓に持っていったと伝えられていますが、太宗皇帝の墓がまだ発掘されていませんので、お墓の状況がよければ本物が出てくる可能性はあります。現状、こういった模写本が世界中に10点程度あるだけです。現状、王羲之の書を伝える最良の一つです。

これを6年前に九州国立博物館は買いました。九州国立博物館の購入予算は年間大体5億円なんですけど、これは幾らだったでしょう。実は3億8,000万円です。1字が2,000万円ぐらい。それだけの価値があるということです。専門家の委員に評価してもらったら、その平均値が4億幾らという5億円近い金額でしたので、無事に購入出来ました。



王羲之筆妹至帖（双鉤填墨）唐時代

宮内庁の三の丸尚蔵館にある喪乱帖が世界で一番レベルが高いと言われています。先ほどお示した、私が18歳のとき臨書していた作品ですね。あれは大きく臨書していたんですけど、実際は30センチぐらいの大きさのものなんです。

こういう作品が日中の文化交流でとても重要だということで購入いたしました。後で九博のところで改めて話をしますが、「日本文化はアジアとの交流からできている」ということをテーマにしてつくられました。

東京が日本文化全般と世界との交流で、京都が京都地域と平安文化、そして奈良が仏教美術とその地域の文化、じゃあ九州はということになると、遣唐使も遣隋使も全て九州を経由しながら都に上がっていていますので、そういう意味で舶載された文化は西から東に移ってくるという。九州は通過地点だったというふうにも捉えられるんですが、九州でちゃんとした評価を受けないものはもうそこで終わってしまうわけです。そういうことで、九州のテーマがアジアとの交流ということで、この作品はその基盤になるものだと買ったものです。

これは九博の目玉作品なんですが、日本の書というのが中国とどういう関係にあって、どういう状況で変わってくるかというのをちょっとお見せしようと思ってここに作品を上げておきました。

下の写真の左側が王羲之の作品で、石碑に掘られている文字の上に紙を置いてその上に墨をつけて作った一種の複製の拓本です。拓本の形でつくった王羲之の書の作品です。右の作品が皆さんもよく知っている空海、弘法大師の風信帖と呼ばれている作品の中から書という字を取ったものです。両者を比べて、筆の傾き、横線が何本もありますけど、下の日という字の呼吸がちょっと違いますけれども、形的にはそっくりだと思うんですよね。空海は、御存じのように、讃岐の国で生まれて都に上がり、遣唐使に加えてもらって中国に渡って1年半ぐらい留学して帰ってくるわけなんです。日本でもしっかり書を学んでいたわけですけど、中国でも学んでいるとい

うことで、日本の仏教史的に考えても書道史的に考えても非常に注目される人です。

三跡 小野道風

次が、王羲之と小野道風。三筆、三跡というのを昔々皆さん習われたと思いますが、先ほどの空海は三筆の一人ですけれども、小野道風というのは三跡の一人で、一生懸命、書の手習いをして字がうまくなったということです。王羲之のアンという字と、小野道風のアンという字、この右のアンという字は、夏の展覧会「皇室の名宝」に出品される「屏風土代」——屏風のための下書きの作品が、九州に初めて来ますけれども、その中から取ったものです。字形がそっくりであることが分かります。ただ、崩しが若干違うので、一画目の点が内側に向いているのと上から流れてきているのとの違いがあると思います。



王羲之



小野道風

こうして、日本の書は平安時代の中期ぐらいまでは中国のものをお手本にしながら移行してくるんだということを念頭に置いてもらえばいいんですが、この小野道風のころになると、中国的なものをまねをするだけでなく、日本的なものが芽生えてくると言われております。日本的な書ということで「和様」と書きます。どこが和様かというのが、これ（会場で細長いペンケースを用いている）が大きいからよく分かると思うんですけど、これを筆だと思ってください。中国の人の筆の持ち方というのは、こういうふうに2本かけて筆が真っすぐ立っています。それがだんだん日本風になるに従って筆が傾いてくる。傾いてくると、筆の穂先が左に来るのと、書風が柔らかくなってくるんですよ。それがやっぱり日本風と中国風の違いであると。書いてみると分かるんですけど、柔和になって、柔らかくなって、芸術的な表現はできるんですけど、ちょっと弱くなる感じもします。どっちがいい、どっちが悪いということは言えないんですけど、そういったものが出てきます。



王羲之



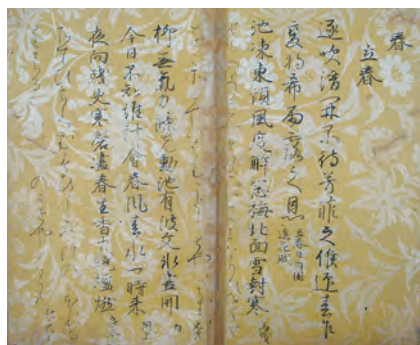
空海

平安時代と書

次の写真の作品に移ります。この粘葉本^{でっちょう}和漢朗詠集がこの夏の展覧会に来ます。とても美しい中国製の紙に装飾をしてある料紙に和漢朗詠集を書いたものです。和様の書風で書いているんですけど、書かれている内容が「和漢朗詠集」という言葉が示すように、和は和歌で、漢は漢詩もしくは漢詩句、それをテーマごとに抜粋して編集してある本で、804句あります。藤原公任という、藤原道長と同年の人が編さんしたものです。

これが平安時代には大流行します。なぜ大流行するかというと、宮中で朗詠をする、和歌や漢詩を詠うということがどれだけ尊重されていたかということなのです。平安時代の残されている写本を見ると、一番多いのが古今和歌集です。最初の勅撰集ですね。それは当たり前なんですけど、2番目に多いのがこの和漢朗詠集なんです。つまり、2番目、3番目の後撰集とか拾遺集以上に評価が高いんですよ。後撰集や拾遺集のほうが新しければともかく、この和漢朗詠集ができるのは11世紀の初頭ですから、後撰・拾遺のほうが先にできているわけですが、朗詠するためのテキストということで非常に尊重されました。

それぐらい宮中において朗詠が大切であるということの証です。漢詩も和歌も編さんしたものの中に入っているということで尊重されるんですが、それ以上に、こういうきれいな本に書いて、例えば太政大臣になる、左大臣になるとかいったときのお祝いとしてプレゼントする、もしくは自分の娘が天皇家に^{じゅだい}入内するための持参品にするというような形でつくられました。お習字の手本とは違って、身の回りに置いて鑑賞する手本ということで、非常に尊重されるものです。書道史では調度手本といって、お習字の手本とは違うんだということで分けて表現されています。



粘葉本和漢朗詠集

いろいろプレゼントされるもののランクを枕草子の中で掲げられていますが、3番が駿馬——足の速い馬、今風で言うとサラブレッドです。2番目が伝世の楽器。例えば正倉院に伝わる五弦の琵琶とか七弦の琵琶とかですよ。では1番は何かというと、この調度手本なんです。正倉院に伝わるものより、サラブレッドより高い評価を受けているのが調度手本だというのが平安朝の公家文化の中にあったということを念頭に置いてください。今の感覚とは違うんだということです。

平安末期から鎌倉初期にかけて

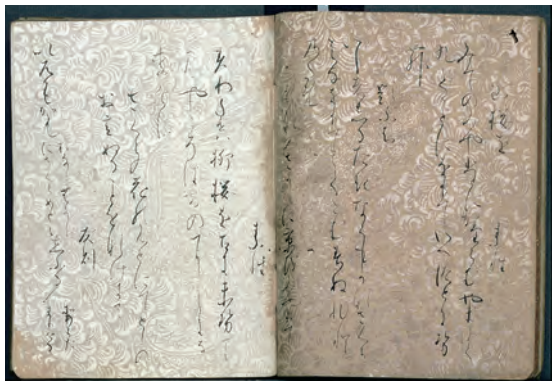
先ほどのものから少し時代が下がって、12世紀の初めぐらいの作品に元永本古今和歌集があります。先ほどは中国製の紙と言いましたが、これは日本製の紙です。日本人もこういった紙をつくれるようになってきたということです。中国製の紙は竹の繊維です。これは日本の紙ですので、楮とか三桮の混合紙でつくられています。

これは古今集の写本でして、料紙のところを見て分かるように、クジャクがあったりとか、二重菱の文様があったり、日本人好みの文様に次第に変わってくる。こういったものが日本風の文化として定着するのが平安時代、11、12世紀です。

平安末期から鎌倉初期にかけて日本の中に禅宗が入ってきます。皆さんも習ったと思いますが、栄西などの僧侶が中国から日本に将来してくるわけです。あるいは曹洞宗の道元。曹洞の洞はさんずいに同じという字を書きますから、ほこらで、普通に読んだら「そうどうしゅう」になるんですけど、「そうとうしゅう」と濁らないのが正解です。そういった文化が、曹洞宗の場合は永平寺、それから横浜市鶴見にある總持寺が本山で、今も続いているわけです。

こういう中国の新たな宗教が入ってくると、入ってくる教えが書いてある書物、中国の人が日本に来る、もしくは日本の人が中国に勉強に行く、そうすると中国文化が再び入ってくるんですよ。古代の頃は、中国文化が入って大きな影響を受けます。鎌倉時代では日本文化があって中国文化が入ってきますので、どの程度それが浸透していくかは分かりません。それを勉強した人は中国風の書を書くようになっていきます。

次に、これは大燈国師と言われている宗峰妙超という日本の禅宗の祖と言われている人の文字です。



元永本古今和歌集

ど、先ほどの平仮名が書かれているものと違って、文字が力強く、雄渾な感じがするようになっていると思います。だから、こういうことを繰り返しながら、一部の日本人は中国的な好みが変わっていくということが言えるんじゃないかと思います。

室町時代から江戸時代へ

室町時代も並行しながら日本的なものが踏襲されていっております。この後、中国文化が入ってきます。隠元、木庵、即非、少なくとも隠元というのはインゲンマメの隠元ですので、皆さんも名前ぐらいは聞いたことがあると思います。この隠元が日本に入ってくる経緯となったのは、日本から来てくれということもあるんですけど、中国が動乱の世の中になってきたので日本へ避難してきたという考えもあります。先ほどの臨済とか曹洞は京都に入って、あるいは鎌倉に行ったわけです。一方、隠元の黄檗宗は江戸幕府が庇護して、宇治に萬福寺をつくるのを支援しました。従って、この黄檗宗は最初に入ってきた長崎のお寺と宇治の萬福寺が拠点になるわけです。だから長崎も宇治の萬福寺も、ある意味リトル・チャイナのような状況になって、中国文化を発信する拠点となってくるわけです。そういったものが日本文化と融合しながらできてくるというのが、書の歴史の一つの流れになっております。

こういったお坊さんの力を得ながら、日本の中に中国的なものが三たび入ってきます。日本の知識階級の人にはこういった中国的な字を書くことが流行してきます。これは屏風で、一扇風の大きさの中に二文字の字を書いているもので細井広沢という江戸時代・中期の儒学者の書です。

だから、日本的なものが本当に浸透した江戸時代であるからこそ中国的なものが新鮮な目で迎えらるるんですね。時代の中でその人がどうして出てく



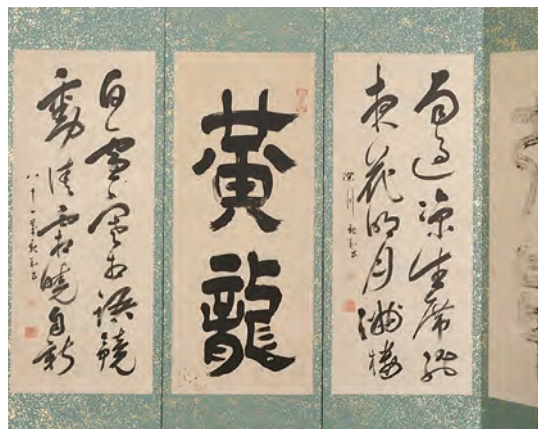
細井広沢 文語屏風（部分）

るかは時代の必然であるというふうに、書道史を見るとよく分かります。

さらには、細井広沢の弟子の三井親和は、江戸で活躍するんですが、隷書で書いたり篆書で書いたり、行書、草書で書いたりするような屏風を残していくようになります。こういったものが知識階級で非常にはやっていきまして、三井親和の書いた文字を着物に染め抜いて、親和染として大流行をすることにもなります。

幕末の人で、知識階級の人たちに影響を与えた頼山陽は、儒学者として一世を風靡しましたが、日本文化の中で中国の書が定着する中心人物となっていきます。だから、日本の書というのは絶えず中国との影響を受けながら、先ほど粘葉本和漢朗詠集とかのお話をしましたように、日本文化の底流を両者が並行しながら流れていっている。

ただ、一番最初は中国文化一辺倒だったのが、平安時代の中期、後期になってくると、日本文化が極端に言うと9割方、中国文化が1割ぐらいになります。その割合が絶えず増減しながら幕末まで続いていくわけです。江戸時代になると、ほとんど日本文化が中心となり、中国のものは知識階級、それから



三井親和 詩書屏風（部分）

そういったものに興味がある人だけに限定されるといことになります。お互いに影響されながら進んでいくというのが書の歴史であります。

こういった書の歴史の一つをたどることが日本文化の形成をたどることにもなりますので、中国と日本、もしくは朝鮮半島と日本というものを考えながら、九州国立博物館の展示は展開していくということになるわけです。

九博と太宰府

ここから九博に話は変わっていきます。本来なら、西の都と言われている太宰府は港に近いところにあるのが普通でしょうけれども、太宰府は内陸にあります。白村江と我々は習いましたけど、白村江の戦いで朝鮮半島にある日本の出先機関みたいな任那が滅ぼされたというのが大きな経緯になります。それを防御するためにできたのが水城の堤防です。

万里の長城に比べてみれば短いものかも知れませんが、大宰府という盆地を守るために、10メートルの高さの土塁をつくって守ったというのが、あの水城です。本来なら、史跡ですので西鉄であるとか高速道路で水城を切るなど、今だったら多分できないと思います。当時はまだ史跡の考えがさほどでないで、ああいった形になったのかと思います。便利さの反面、文化の破壊が行われたわけです。どっちがよかったかというのは何とも言えないわけで、生きている人たちの生活を守るといことも、とても重要なことだろうと思っております。

ここ太宰府に九州国立博物館ができていますが、太宰府天満宮の鎮守の杜があったところを天満宮さんから寄附をしていただいたところが博物館の敷地になっております。それが基盤となって博物館ができたわけですが、太宰府天満宮の西高辻宮司のおじいさんの代に寄附して下さったわけです。



虹のトンネル

とにかく太宰府に国立博物館を持ってこなければいけないという強い使命感をお持ちだったようです。そのとき14万平米を寄附し、県が追加で3万平米を買い足して九博はできました。

博物館を誘致する、もしくは建てるために、福岡の財界の様々な人たちの協力を得て寄附も40億円あまりを集めて、ようやく設立されました。

九博へのトンネルの入り口は、お宮の中に入っていくような感じですが、その中に長い、階段にして120段分のエスカレーターがあります。その2基つないだエスカレーターで上がって、7色に変わる虹のトンネルを真っすぐ進んでいく。これを出ると、博物館が眼前に現れてくるといことになるわけです。

写真の歌碑には「わが苑に梅の花散る久方の天より雪の流れ来るかも」と書いています。大友旅人の和歌です。梅の花が散っているのが天より雪が降っているように見えるよという歌なんです。これが令和の由来になっていて、旅人の家で催された和歌の会で旅人が詠んだ歌なんです。令和の年号の発表のときには、この碑の前から天満宮の権宮司の、味酒さんが取材を受けていた場所です。

九州国立博物館にも、もう一つの歌碑があります。「ここにありて筑紫や」云々と書いてあり、旅人が九州から奈良の都に帰った後に、あっちのほうで西のほうで、大宰府があるところだなというのを詠んだ歌なんです。



大伴旅人歌碑

九博の施設

こういった文化的な背景を得ながら九州国立博物館があることを紹介させていただきまして、これから九州博物館の施設についてもちょっと御説明したいと思います。

飛行機から見ると、森の中に大きな波のように、九博の青のチタン製の屋根が見えるんです。福岡空港を飛び立って、三分か四分ぐらいのときに、A席に座っていただいて左下を見るとこの九博の屋根が

見えます。この自然の中にある博物館をどう展開をしていくかということを考えて、枝垂桜 250 本植えました。現在、かなりの高さになっていますけど、これから 10 年、20 年たつと、九州には枝垂桜の群生はありませんので、ここが枝垂桜の名所になると思います。ぜひ来年の 3 月、時間がありましたらお越しいただければと思います。

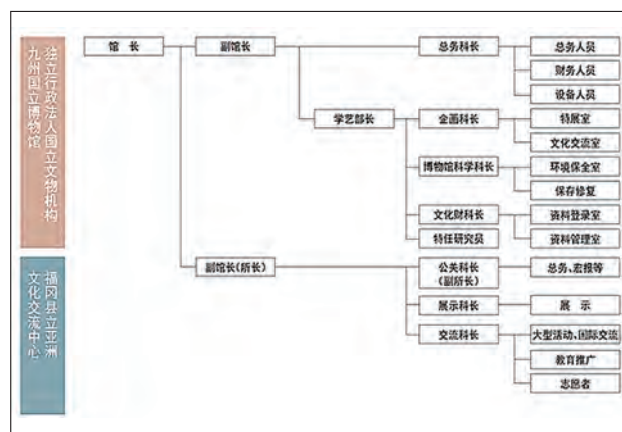
桜は、今後も増やしていきたいと思っています。皆さんの中には博物館というと勉強に行くところと思っていらっしゃる方がいると思うんですけど、私はそうじゃなくて、博物館に行って自然の桜を見たり、アジサイを見たり、つつじを見たりと何か憩いの場になってもらいたいという思いがあるんですよ。知識を得る場所、憩いの場所、安らぎの場所、そういった形が博物館であっていいと思っていますので、人それぞれがどういった思いで博物館に来ていただけるかというのは御自由だと思っています。そういった博物館の活用の仕方をしていただければいいと思っています。

加えて、私は博物館の財産というのは文化財だけじゃないと思っていますので、今言った施設、環境。そして働いている人たち、これらも財産だと思っています。その人たちが文化財を伝えていくという気持ちを持続していくことも重要視したいと思っています。

博物館の管理職として何をしなきゃいけないかというと、人の補填をするか、仕事を取るかして、適切な仕事量にすることが重要です。勤務評定をつけるときに、部下が何をやっているのか分からない上司があまりにも多いんです。民間の会社だと、課長とか部長が仕事を全部把握しているか分かりませんが、九州国立博物館の学芸職員、研究職員に関して言うと、その課の属している仕事プラス自分の研究業務、あるいは特別展業務、平常展業務、広報業務、教育普及業務と、いろいろな業務を並行してやっているんですけど、それを上司が全部把握しているかという必ずしもそうでないと思うんです。だから、そういった業務を自分は何%それぞれの仕事をやりますよというエフォートを年度初



岡倉天心（日本美術院提供）



国立博物館の運営

めに出させて、上司がそれを認識して、年度末に評価をするという形を去年から取らせています。このような体制を今後も継続していきたいと思っています。

それから、博物館の建物はガラス張りになっているので、怖いと思われる方がいるかも知れませんが、免震構造になっております。これは先代の館長さんの三輪嘉六先生が偉かったということと、政府の建築の人が聞いてくれたということがよかったというふうに思っております。

私が着任した直後に、熊本の大地震が起きました。そのときに九州国立博物館は何をやっていたか。兵馬俑の展覧会なんです。免震構造にしていなくても大丈夫だったかも知れませんが、太宰府辺りは震度 4 だったんですが、免震のおかげで震度 2 弱だったんです。だから、全く心配なくて、夜中に連絡を受けて、大丈夫だというんでほっと安心して、次の日に中国に連絡をして、兵馬俑はみんな安全でしたよという話をしたというのを昨日のここのように覚えております。

九州国立博物館というのは、平成になってみんながつくってくれて言ったものではなくて、実は岡倉天心が、明治時代に既に、実に 100 年以上前に、九州に国立博物館ができるべきだと提唱しております。彼は、九州国立博物館だけじゃなくて、東京国立博物館なんかの東洋館もつくるべきだと明治の頃に提唱していますので、先見の明が物すごくあった方です。東京国立博物館の今でいう学芸部長の任から東京美術学校、藝大の学長になりました。その後、ボストンに行って、ボストンで日本美術の拠点をつくっていったということになります。これ以前に鎮西博物館構想というのがあって、地元でも何度か設立の動きがあったということなんです。

この写真に「館長」とあるのが私のポストで、この

上側に四つの課がありますが、これが独立行政法人文化財機構の九州国立博物館の四つの課、下の方に三つの課があるのは福岡県が応援してくれている課、これら七つの課があって博物館が機能しているという状況であります。

アジアとの交流

なぜ、九州国立博物館がアジアとの交流をやったかということ、外国からの刺激を受ける日本の窓口、江戸時代というのはかなり難しくはあるんですけども、いろいろなところから文化が入ってきて、長崎だけだと思われるかも分かりませんが、朝鮮通信使とかもあって対馬からも入ってきていて、薩摩から入っている。もう一つ、松前口というのがあって北海道から入っています。この四つの口から文化の刺激を受けているというのが日本なんです。その四つの口の三つまでが九州にあるから、「日本文化に影響を与えたアジアとの交流」を九博でやろうということなんです。

次に、学術文化交流協定というのを結んで世界の博物館との学術交流をやっているというのがこの写真の地図です。この地図には10個の学術文化交流協定の拠点が示されております。一番最初は韓国から始まったんですけど、今、中国と六つできております。あと、ベトナム、タイ。ほかにもミャンマーという話も進行していますが、コロナ禍の今はちょっと難しいなということで止まっています。

今、日中関係は非常に悪い状況ではあるんですけど、文化交流、草の根交流、地域交流をやっているかなければ何も進みません。そういう意味で、アジアを対象にしている九州国立博物館としては、日韓関係も悪い、日中関係も悪いけれども、文化交流はしっかり進めていきたいなと思っております。

韓国との交流においては、百済展を九博でやらせていただいています。これも学術交流の一環として、朝鮮半島を経ながら日本に文化が入ってきたという証になろうかと思います。文化で非常に近い関係にある部分がありますので、そういった意味で比較対照をするにはとても面白いかなと思っております。

宗像大社の展覧会をやったときも、韓国から指輪とか陶製土器をお借りしていますけれども、それも交流協定のおかげでスムーズに進みました。

中国とも契丹展、先ほど言った兵馬俑の展覧会を開催しました。兵馬俑がある陝西省からも交流協定

を結んでくれという要求も来ておりますが、九博の身の丈に合った数に抑えたいということで、今のところ、ちょっと待ってくれと。十分に体力がついたら、陝西省のほうとも結びたいなと思っております。

ベトナムとは、大ベトナム展というタイトルで、日本のものを向こうに持って行って展覧会をして、帰国展を九博でやったりしました。博物館を愛する会のメンバーの手助けもあって、向こうで日本のワークショップをやったりすることもあったようです。

もう一つがタイです。ここは単館との交流協定ではなくて、タイの芸術局、言ってみれば日本でいう文化庁です。九博が独自に交流協定を結んでおりまして、タイの博物館グループ全部は芸術局の傘下にあります。展覧会のためにタイの作品を持ってき、日本のものを向こうに持っていくという交流をやってきました。

台湾との交流は、皆さんもよく知っているように、台北故宫展を九博でやらせていただきました。そのとき大変な苦勞もしました。台湾と中国というのは、二つの中国、一つの中国ということで政治的なことがあるんですけど、文化交流は必要なので推進していかなければいけない。東京国立博物館では、北京故宫展をやって、台北故宫展をやりました。ちょうど台北故宫展をやったときは私が東博の副館長だったものですから、九州の台北故宫展も一括して交渉をして台湾に何回も行ったり来たりしたところです。そのお礼として、下の写真にある「日本美術之最」、最高という意味の展覧会。台北故宫の南院で開催しました。

博物館は展示だけが博物館の仕事ではありませんので、一部違う仕事があるということを紹介したいと思います。教育普及で、子供たちに将来文化になじんでもらうということで、子供たちへの教育普及。



台湾との交流



学術文化交流協定の締結状況



このちっちゃい子供たちです。中学生、高校生、一般への教育普及というのもしっかりやっていくというのが、国立4館の中では九州が一番進んでいると考えてもいいんじゃないかと思っています。

我々は、九州国立博物館のことを「九博」とキャッチフレーズで言っています。地元の方たちは、九国博と言ったり国博と言ってくださっていますが、我々のグループでは業界用語で、東博、奈良博、京博、九博と言っていますので、我々も九博と言っています。それをさらに宣伝をするという意味で車のナンバーが989です。東博の公用車は1089です。いろいろな考え方がありますが、そういう駄じゃれも入れながら博物館の宣伝に努めているところです。

経済的な発展のために

博物館で、皆さんも来てくださったことがあるかと思いますが、阿修羅という展覧会があったのを知っていますか。東京で94万8,000人、太宰府の九博で70万人の集客ということでした。これだけの人が来てくれるということは、もうめちゃくちゃですね。九州の総人口が東京の人口の3分の1ですから、それだけ九州の方が関心を持ってくださったというのは私にとってはとてもうれし

いことです。

それができた原因は何かというと、この写真のCTスキャンです。美術のCTスキャンというのは今どこの館にもありますが、その先駆け的なのが九州国立博物館でした。阿修羅の健康診断をやってくれということで、九州にわざわざ、ああいう脆弱なものを1,200キロかけて運んできたということです。移動における作品への振動を防止する車をつくるのに1,000万円ぐらいかけているんです。CTスキャンというのはCTスキャンがあればすぐできるというものではなくて、計測したものを診断しなきゃいけない、これは経験が必要なんです。4館の中でも九博が1番と考えております。

加えて、博物館というのは、活用、活用ばかりが言われています。都倉文化庁長官も活用したいとおっしゃっているんですけど、活用するためには活用できるように修復していかなきゃいけない。九州国立博物館は、その修理の拠点の一つに今なっております。それまでは、国宝重要文化財は全部、東京・京都に持っていかなければ修理できなかったのを、九州国立博物館に修理施設をつくることによってそれができるようになったと。いろいろな要素が博物館の中に入っていますので、これを推進していく必要があると強く思っております。

加えて、日本文化のことについて展示をする博物館なので、こんな展覧会はやるべきじゃないという人もいるんですが、九州には国立の西洋美術館がないんです。したがって、三、四年に1回は西洋美術展もやっていいとは思っておりますので、今後も考えていきたいと思っています。ゴッホ展、フェルメールの展覧会、もう3年前になりますか、印象派の展覧会、こういったものを考えていっております。さらに、国立の科学博物館的なものも九州にはありませんので、ラスコーの壁画の展覧会もやらせてい



X線CTスキャン

いただきました。今後そういった取組をしながら、地域の人に世界の文化も紹介しながら、利益になっていく方策をつくっていきたいと思います。

欧米との交流と九博のこれから



欧米との交流

九博というのは、必ずしもアジアばかりが対象じゃないので、アメリカやヨーロッパの人とも交流を続けていきたいと思っていますので、上の写真はフィラデルフィア美術館の館長と一緒に撮ったもので、その下の写真はニューヨークの総領事公邸に招かれた写真です。

当時のニューヨークの総領事が学生寮の先輩でした。ニューヨークの総領事は大使格ということでみんな大使と呼んでいました。「おまえ来るんだったら御馳走するよ、誰か一緒に希望があるか」と言っ
てメトロポリタンの理事長を呼んでくれました。そういうことでつながりができて、今後一緒の共同研究なり、展覧会につなげていきたいというふう
に思っています。

写真に出ているこの部屋は東京国立博物館時代の副館長室なんですけど、この「一期一会」というのが、先ほど私の学問の師匠といった小松茂美先生の

書です。小松先生を介して、この坂本五郎さんと知り合いになりました。この方の没後、三十億相当の寄贈品を寄附していただきました。やっぱり人と人のつながりは大きい、リモートリモートと言うけれども、やっぱり対面での人とのつながりは必要であろうと考えております。



坂本五郎さんと

最後に、九州国立博物館の枝垂桜、年々大きくなっていくと思いますので、皆さんも楽しみにしててください。

また、夜間開館をやっておりましたが、コロナ禍になってそれができておりません。いずれこれが落ち着けば、夜間開館をして、夜の博物館も楽しんでいただけるようにしたいと思っています。

展望ということになったかどうか分かりませんが、博物館が元気になって、九州の皆さんとともにこれからも歩んでいきたいと思っています。博物館というのは、建物ができたら終わりじゃなくて、未来永劫続くんです。やっぱり博物館の人や研究者など関係者だけのものじゃなくてみんなのものです。皆さんもぜひ、展示替えを頻繁にしておりますので、3階の特別展だけではなくて、4階あるいはその周辺の環境にも目を向けていただければと思います。

今日はこういうコロナ禍の時代にあって、多くの方に来ていただいて大変うれしく思っております。これからも、九州国立博物館をどうぞよろしく願います。ありがとうございました。(拍手)



枝垂桜

福岡地区会

福岡地区会定期総会を開催

来年は多くの事業報告を願う

令和3年7月5日（月）午前11時より福岡地区会定期総会がホテル日航福岡において開催されました。

総会は吉住総務委員長の司会により始まり、来賓の紹介が行われ、外園副会長の開会の辞、笹田会長の挨拶の後、議長選出に入り川野会員が選ばれました。議事録署名人には元山会員と行時会員が指名され、議案の審議に入りました。

議案1 令和2年度事業報告及び承認について

議案2 令和2年度決算報告及び承認について

吉住総務委員長及び木下会計担当委員より事業報告及び決算報告について説明があり、桑原監事より監査報告がされ、審議の結果承認されました。

議案3 令和3年度事業計画及び予算案承認について

吉住総務委員長及び木下委員よりそれぞれ説明があり、審議の結果承認可決されました。

以上で議案審議が終了しました。続いて来賓のMJS九州沖縄圏総括部長の鈴木執行役員から祝辞が述べられ、最後に大松副会長の閉会の辞により総会は無事終了しました。

昨年度はコロナウイルス感染症の影響でほとんどの行事が中止となってしまい、定期総会も限られた人数での開催となってしまいました。来年の総会では多くの事業報告がなされることを願ってやみません。

（福岡地区会 空閑 秀樹）

顧問先からの相談に対応するための「認知症の正しい知識」

業務に活かしていきたい



令和3年7月27日（火）午後1時30分から4時30分、MJS福岡支社研修室にて、九州ミロク会計人会主催の「顧問先からの相談に対応するための『認知症の正しい知識』」と題しました研修会が開催されました。講師に公認会計士・税理士の木下勇人氏にお話し頂きました。

福岡地域はまん延防止等重点措置が実施され、7月28日にコロナ警報を発動し、7月29日から不要不急の外出自粛、8月1日からは飲食店の営業時間短縮依頼という状況下での会場参加型研修となりました。

約100名収容の研修室に定員40名限定にして座席の間隔をあげ、休憩は1時間ごとに行い換気の実施をして、参加者はすべて検温してマスク着用の感染防止対策を実施して開催されました。

会場の準備は大変でしたが、木下先生のお話は実務に役立つお話でした。

我々税理士の業務は認知症リスクを孕んだ業務ばかりで、どのタイミングで認知症の話を関与先に説明するか？また、どのタイミングで後見人の話を持ち出すか？などの対応方法を分かりやすく説明して頂きました。認知症の現状と後見人の業務（身上監護、財産管理、財産承継）を、木下先生の実体験を交えて教えて頂きました。

後半は不動産オーナーの場合と会社オーナーの場合について、それぞれの場合で選択可能な対応策を挙げて頂き、顧客のタイプ別による具体的な対応もお伺いできました。ここで得られた知識を今後の業務に活かしていきます。

（福岡地区会 成川 弘）

北九州地区会 北九州地区会定期総会を開催

満場一致で承認

令和3年7月1日（木）新小倉ビル会議室において北九州地区会の定期総会が開催されました。

総会は、三井副会長の開会の辞で始まり、小林地区会長の挨拶の後、白石理事が議長に選任され、各議案の審議に入りました。

第1号議案 令和2年度事業報告及び承認について

小林会長から、コロナ禍において残念ながら計画されていた各行事の多くが中止となった旨の説明がありました。

第2号議案 令和2年度決算報告及び承認について

決算報告の後、洲上監事による監査がされたこ

とが報告されました。

第3号議案 令和3年度事業計画案及び承認について

各議案の審議の結果、すべての議案について満場一致で可決承認されました。

最後に、ご来賓の MJS 九州沖縄圏統括部の鈴木執行役員から祝辞が述べられ、福田理事の閉会の辞により総会は無事終了となりましたが、令和3年度は事業計画のとおり、各行事が実施されることを切に願うばかりです。

（北九州地区会 中山 淳）

大分地区会 大分地区会定期総会と研修会を開催

有意義な研修会

令和3年6月25日（金）大分市のホルトホール大分において、九州ミロク会計人会大分地区会第19回定期総会が開催されました。

定期総会に先立ち、MJS 税経システム研究所客員研究員で税理士の武田秀和氏による「相続財産と名義財産～名義預金・名義株の認定と調査～」をテーマとした記念講演会を開催しました。大分地区会での記念講演会を含む研修会は令和2年1月17日以来であり、実に1年5ヶ月ぶりでした。今回はコロナによる感染防止策を実施した上でのハイブリッド研修となり大分地区会では初めての試みでした。

研修は相続における名義預金と名義株であり我々が相続に携わる上で非常に判断に迷うことが多いのですが、その肝を武田先生が分かりやすく解説して頂きました。特に税務調査を含む課税庁側からのスタンスの説明は分かりやすく非常に有意義な研修となりました。

講演終了後、引き続き午後4時45分から定期総会を開催しました。まず泉会長に挨拶を頂き同会長の議事進行のもと、議案審理に入りました。



事務局より令和2年度の事業報告及び決算報告についての説明が行われ、審議の結果、全会一致で承認可決されました。

続いて、令和3年度の事業計画案及び予算案についての説明提案があり、全会一致で承認可決されました。

議案審理の後、来賓からの祝辞があり定期総会は無事終了しました。

本来であれば総会終了後の懇親会及び翌日に予定していました親睦ゴルフコンペがコロナ禍で中止となりましたが、一日も早く新型コロナウイルスが収まり通常の開催が出来ることを願ってやみません。

関係者の皆様大変ありがとうございました。

（大分地区会 衛藤 勉）

佐賀地区会 研修会「インボイス制度準備セミナー」

Q&A を使い丁寧に説明



令和3年8月4日（水）佐賀市のホテルニューオータニ佐賀において、MJS 税務システム研究所客員研究員で税理士の佐々木京子氏を講師にお招きして「インボイス制度準備セミナー」とい

うテーマで3時間の研修会を開催いたしました。

コロナ禍の中での開催という事で3密対策を万全に整え、60名程収容可能な部屋を参加者18名で使用し、手指消毒、1時間おきの換気を行いながら実施しました。

講義では、適格請求書発行事業者登録制度（インボイス制度）について、申請時の注意点や仕入税額控除の要件などを、7月に更新された最新のQ&Aなどを使い丁寧に説明して頂きました。

登録はもうすぐ始まるが、運用開始まで2年もあるとゆっくり考えていたましたが、顧問先への制度の説明、免税事業者の申請の有無、事務所内での研修など準備することが沢山ある状況だと実感した講義でした。

（佐賀地区会 池田 健一）

熊本地区会 熊本地区会定期総会を開催

全議案承認可決される

令和3年6月11日（金）KKRホテル熊本において、定期総会が開催されました。

総会は碓塚副会長の開会の辞の後、宮本会長から11月18日開催予定の第45回全国統一研修会熊本大会への思いを込めた挨拶がありました。

その後、議長選出に入り甲斐会員が選ばれ、議案の審議に入りました。

第1号議案

令和2年度事業報告及び令和2年度収支計算書承認について

中尾副会長及び碓塚副会長から事業報告及び収支計算書について説明があり、下田監事から監査報告がなされました。審議の結果承認可決されました。

第2号議案

令和3年度事業計画及び令和3年度収支予算案承認について

中尾副会長及び碓塚副会長から事業計画及び予算案について説明があり、審議の結果承認可決されました。



全議案が承認可決された後、本年度の古希会員が紹介され、記念品の贈呈が行われました。

続いて来賓のMJS九州沖縄圏統括部長の鈴木執行役員による祝辞、九州ミロク会計人会からの祝電披露がありました。最後は碓塚副会長の閉会の辞により総会は無事終了しました。

なお、例年総会同日開催しておりました研修会及び懇親会につきまして、本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止されました。

（熊本地区会 井手 みほ子）



システム開発委員会
委員長

成川 弘

この度、システム開発委員長を拝命しました成川弘と申します。

私の前任は MJS システムに精通されておられる外園令明先生なので、後任としては荷が重いですが、会員の皆様と同じ目線で委員長を務めさせていただく所存です。

MJS のソフトは 15 年以上利用させてもらっていますが、最初に入社した税理士事務所で触らせてもらったときに会計大将も法人税申告書も便利すぎて驚いて感動したことを今でも覚えています。

そのシステムの開発に私が関わるのは不思議な感覚ですが、少しでも多くの利用者にあの時の感動を届けられるように尽力させていただきます。

本年も従来同様、アンケート調査により皆様の貴重なご意見・ご要望をお伺いして、本社開発スタッフに改善要望をいたします。

Member's short Essay 偏西風

この度、春の叙勲において旭日小綬章を拝受いたしました。納税功労者として青色申告会での長年の活動が認められたものですが、私自身の力というより青色申告会の仲間、税理士会、税務当局、そして青色申告会事務局の協力による賜物と思っています。

我々職業会計人は法人会、間税会、青色申告会等色々な納税団体に関わっていますが、まだまだ会員数は少ないと思っています。

個人事業者は年々減少し続けています。事業主の高齢化、少子化、コロナウイルスまん延による事業の悪化等事業承継の難しさが廃業を増加させているものと思います。

少しと一歩ずつ

◆佐賀地区会

石丸新

青色申告会は個人事業者の税制、社会保険制度について提言し消費税等の改正、マイナンバー制度の導入、e-Tax の推進等会員への理解と指導に務めていますが、会員が減少することにより指導体制も弱体化します。一番悩ましいところです。

さて、私の近況ですが、八月は北アルプスの白馬岳に行ってきました。四泊五日の行程でした。ゆったりした行程で登りました。毎回、頂上まであと 100m 程の所では、いつも疲れきってしまい、あと少し、あと少しと一歩ずつ足元を見つめながら進み、そして頂上に着いた時の喜び、感動は最高のものがあります。そして次に行く時は果たして登れるだろうかと不安に思いながら登山先を探すこの頃です。

編集後記

新型コロナウイルス感染症の再拡大のため全国統一研修会熊本大会は、会場参加とオンラインによるハイブリッド開催となりました。大変残念ですが感染状況から仕方がありません。こうなっは初めてのオンライン大会がトラブルなく行われ、

多くの方に参加していただくことを願うばかりです。ワクチン接種は順調に進んでおり、新規感染者も減少してきました。全国の皆様にオンライン大会を見ていただき、ぜひ熊本を訪問していただきたいと思います。(広報委員長 空閑 秀樹)

エヌエヌ生命は
「中小企業サポーター」
として
社長と会社の
今と未来をお守りします



代理店制度について詳しく説明を聞いてみませんか？

ミロク会計人会 会員の皆さまへ

エヌエヌ生命は会員の先生方を通じ、リスクマネジメント提案を関与先にお届けしている生命保険会社です。多くの先生方がエヌエヌ生命の代理店となり、制度を活用して関与先の様々なお悩みの解決を行っています。

「中小企業『仕立て』の商品」を、関与先のリスクマネジメントにご活用いただくことで代理店手数料収入を事務所経営にお役立てください。

💡 関与先さまの事業継続に生命保険をご活用いただいています

- ✓ 資金繰りの改善
- ✓ 新しい損金区分での法人専用プラン
- ✓ ガンや介護状態における保障の充実
- ✓ 経営環境の変化に備えるプラン
- ✓ 保険金請求手続きの手厚いサポート

上記はご活用例の一部です。関与先の事業継続のプランやサービスをご活用いただいています。

中小企業「仕立て」の商品

📄 <https://www.nnlife.co.jp/strengths/insurance>



エヌエヌ生命が会計事務所の信頼できるパートナーたる理由

📄 https://www.nnlife.co.jp/agencies/tax_accountants_1b



生命保険代理店制度にご興味をお待ちいただけましたら、右記 HP をご覧ください。 <https://www.nnlife.co.jp/agencies>